

お祖師さまを巡る人々

第1回



高祖日蓮大士ご降誕 800年慶讃

本年から新たに「お祖師さま（高祖日蓮大士）を巡る人々」と題して、お祖師さまのご家族やお弟子方、ご信者方、あるいはお祖師さまを敵として迫害（追いつめ苦しめること）を加えた人などにスポット当てて紹介していくよ。第一回目の今回は、お祖師さまのご両親のお話をするね。

お祖師さまのご両親

お祖師さまは、承久四年（一二二二）二月十六日、安房国・小湊（千葉県）に漁師の子としてお生まれになったんだよ。

お祖師さまのお父さんは貫名次郎重忠といい、遠州国・貫名（静岡県袋井市）を治める先祖代々領主（領土の持ち主）の家だったんだけど、わけがあつて小湊に移ってきたんだ。

お母さんは梅菊といい、舍人親王（天武天皇の子）の十代目の子孫（同じ血をついで生まれる人々）で、下総国・道野辺（千葉県）に住む大野吉清の娘であるといわれているんだよ。

小湊の海辺で幼年時代（幼い頃）を過ごしたお祖師さまは、ある日、ご両親に「山に登らせて（お寺に入つて）学問（勉強）をさせてください。そして、出家（お坊さん）をさせてください。」とお願いした。



お祖師さまは立教開宗後、一番はじめにご両親をお教化され、出家者としての孝養の誠を尽くされた

んになること）させてください！」といってきたんだ。

小さな頃から、友だちとケンカすることなく、生き物を大切にし、本をよく読み、教えなくても仏さまを敬う（尊敬する）お祖師さまに、「ご両親はいつも感心していたんだけど、「出家したい！」とお願いは本当にビックリされたんだよ。でも、ご両親は「お坊さんになって多くの人々をお助けすることは、尊く（たいへん価値がある）立派な（すばらしい）こと」と、とても喜ばれたんだね。

こうして十二歳の時にお祖師さまは、ご両親のゆるしをもらって、故郷にほど近い「清澄寺」というお寺に入られたんだ。

お祖師さまと同じ鎌倉時代の僧侶たち（念仏の法然や親鸞、禅の道元）は、お坊さんになった理由が「幼い頃に親を亡くし



妙日山妙蓮寺へ続く参道入口
父「妙日」、母「妙蓮」の法名にちなんで、「妙日山妙蓮寺」と称し、ご両親の墓所ということから「両親閣」として広く知られている

た」という家庭的な不幸が原因なんだけど、お祖師さまの場合は全く違うんだよ。

家庭に不幸な原因はなく、頭腦明晰（理解力・判断力がすぐれ、かしこいこと）で、幼い頃から仏教にとっても興味（心がひかれおもしろいと感じること）を持たれていた。そして、そんなお祖師さまをご両親も暖かく見守られ「出家の道」を心から応援されていたんだ。すばらしいご家族だね。

ご両親が「信者第二」に！

立教開宗（令和元年五月号の佛立新聞「お祖師さまをお訪ねする物語第十七回」を読んでね）されたお祖師さまは、故郷の安房国から御題目を弘めるために鎌倉（神奈川県）に向かわれることになったんだ。

その途中、お祖師さまは、ご両親のもとを訪ねられ「仏さまの正しい教えは御題目であること。そして、その御題目を弘めるご奉公に生涯（一生の間）を捧げる（ものや真心をさし出す）」とお話されたんだよ。ご両親は、立派に成長されたお祖師さまにとっても感動され、これからは親ではなく、ご信者としてお仕える（その人のために働く）ことを誓われたんだ。

お祖師さまを巡る人々 第1回

今月号から始まった新連載の「お祖師さまを巡る人々」のタイトルのデザインは、
①暗い道：迷い多き現実世界、
②旭 日：道を説くお祖師さま、
③星 に従う人々
を表わしています。
小中学生にも理解できるように二年間にわたって掲載させていただきますので、どうぞ、ご家族揃ってお読みください。

お祖師さまとご両親の三尊像
妙日山妙蓮寺（お祖師さまの墓所）の感応堂には、中央にお祖師さま、左に父・妙日尊儀、右に母・妙蓮尊儀を配した御三尊が奉安されている

